



農業委員・農地利用最適化推進委員 候補者を募集します

問 農業委員会 ☎ 77-3920

農業委員会の委員の任期が平成28年3月31日に満了になることから、新たに選出される農業委員と、新設される農地利用最適化推進委員の候補者を募集します。

■募集方法

推薦または公募

■要件

農業委員

農業に関する識見を有し、農地などの利用の最適化の推進に関する事項その他の農業委員会の所掌に属する事項に関しその職務を適切に行うことができる人

○任期 平成28年4月1日～平成31年3月31日

○定数 13名

○報酬(月額)

会長36,700円

委員30,400円

農地利用最適化推進委員

農業委員会が定める担当地区農地などの利用の最適化の推進に熱意と識見を有する人

○任期 委嘱の日～平成31年3月31日

○定数 7名

○報酬(月額)

30,400円

■委員になれない人

び募集状況を公表し、候補者評価委員会において候補者の評価を行い、議会の同意を得て町長が任命します。

○農地利用最適化推進委員

受付期間中と終了後に推薦および募集状況を公表し、候補者評価委員会において候補者の評価を行い、農業委員会が委嘱します。

■その他

○原則として過半数が認定農業者であること、また委員会業務に利害関係のない人が含まれることが必要となります。

○農業委員および農地利用最適化推進委員の身分は非常勤の特別職で、業務には守秘義務が伴います。



11月9日 消防団定例巡視

個人番号カード 休日にも 交付します

問 町民税務課 戸籍係 ☎ 77-3911

個人番号カードの交付を次のとおり土曜日にも行います。平日に来庁が難しい方はぜひお越しください。

■開庁日 1月30日(土)

■受付時間 午前10時から午後3時

■必要なもの

・個人番号カード交付通知書
・写真付本人確認書類(運転免許証など)
・印鑑(ゴム印不可)

※代理人による受け取りは本人が入院中であるなど来庁が困難な場合に限り、仕事で忙しいなどを理由に代理人への委任は行えませんのでご注意ください。この場合は医師の診断書などが必要となりますので、詳しくは戸籍係へご相談ください。

【注意】

受付は個人番号カードに関するもののみです。証明書の発行などは行いませんのでご了承ください。

芝山の 祭り

その1. 高谷の火祭り

はじめに

日本は全国いたるところで「祭り」が行われています。それは京都の祇園祭のような有名なものから、農村や山村で細々と行われているもの、あるいは「さつぼろ雪まつり」や「よさこい祭り」のようにイベントを「祭り」と表現しているものもあります。

このうち農村などの祭りは、少子高齢化や社会構造の変化により、全国的に存続が危ぶまれています。芝山町でも各地区で祭りが行われていますが、祭りの文化が伝わらない、後継者がいないといった話をよく耳にします。

そこで、広報しぼやまでは祭りを町民の皆さんに広く知ってもらいために、祭りの内容や写真を後世に伝えるため、シリーズで町の祭りを取り上げていきます。

地区を火事から守る神社

高谷の集落を見下ろす高台に、地区の鎮守・大宮神社が建っています。

この神社で、毎年11月11日に「火祭り」が行われています。創建の年代は不明ですが、地元の伝承では、和

歌山県の熊野がその源流ではないかと言われています。また、この祭りは火事除けのための祭りで、昔火祭りを行わなかった際には火事があるそうです。現在の氏子は24軒で、4軒で1つの組をつくり、祭りを行っています。

子どもたちが行う祭り

祭り当日の11月11日、集会所の前には灯籠が飾られ、祭りの雰囲気を感じ上げます。役員や総代、区長は午後5時位から、神社境内に掘った大穴で火を燃やします。大きく燃え盛る炎は用意した材木などの燃料がなくなるまで燃やし続け、その後集会所で食事をします。翌日の午前中に再度集まり、集会所で神事を行います。

近年は地区に子どもがいないため役員が火を燃やしていますが、本来は子どもが行う祭りでした。それでは、昔の祭りを振り返ってみましょう。

以前は小学校1年生〜中学校3年生までの男子が主役でした。燃料の材木などは、祭りまでの日曜日に子

どもたちが集めました。祭りでは燃料のある限り火を燃やすので、子どもたちは神社の建物の周りを藁などで囲い、ここに泊まりました。夜は焼き芋をしたり友達と遊んだり、楽しくて寝る暇がなかったそうです。夜通し遊んだ子どもたちは、次の日眠い目をこすりながら当番の家で朝ごはんを食べ、当番が作ってくれた弁当を持って学校へ行きました。

当番の家では子どもたちだけではなく、地区中の人々が朝食を食べました。これを「鍋掛けず」と言い、当番の家では午前2時から準備を始めないと間に合わなかったそうです。朝食はご飯、汁、ほりほりおろし（大根をおろして甘酢で和えたもの）・漬け物などを用意しました。

将来へ伝える

取材に訪れた際、高谷の人たちはこう話してくれました。「もう以前のように子どもが主役で祭りをすることはできないかもしれません。しかし、祭りがあることで、普段顔を合わせない地区の人とも話すことができます。伝統ある祭りを絶やさないように続けていきたいと思っています」。この思いが続いていく限り、祭りの火は消えることはありません。